

DEUTSCHE HELMUT
BACHSOLISTEN WINSCHERMANN

—— 結成40周年記念 ——



JAPAN ● 2000

ドイツ・バッハ・ゾリステン

—— 結成40周年記念 ——

2000年日本公演日程

| | | | |
|---|------------------|---------------------------------|--------|
| 11月17日(金) 7時 主催: 王子ホール | 東京 TOKYO | 王子ホール | プログラムC |
| 11月18日(土) 7時30分 主催: 宇都宮ロイヤルホテル | 宇都宮 UTSUNOMIYA | 宇都宮ロイヤルホテル エメラルドホール | プログラムD |
| 11月19日(日) 2時 主催: 中新田バッハホール/TBC東北放送 | 宮城県中新田町 NAKANIDA | 中新田バッハホール | プログラムA |
| 11月21日(火) 7時 主催: 旭川市大雪クリスタルホール 共催: 北海道新聞旭川支社 協賛: JAS日本エアシステム | 旭川 ASAHIKAWA | 旭川市大雪クリスタルホール音楽堂 | プログラムE |
| 11月23日(木・祝) 6時 主催: クリスマス・オラトリオ全曲演奏会実行委員会 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン/IBC岩手放送 共催: 盛岡市/盛岡市教育委員会/財盛岡市文化振興事業団 後援: 岩手日報社/盛岡タイムス/岩手日日新聞社/朝日新聞盛岡支局/毎日新聞盛岡支局 読売新聞盛岡支局/産経新聞盛岡支局・河北新報盛岡支社/岩手県教育委員会 岩手日独協会 | 盛岡 MORIOKA | 盛岡市民文化ホール大ホール | プログラムB |
| 11月26日(日) 3時 主催: 岡山バッハカンタータ協会/山陽放送 共催: 財岡山シンフォニーホール | 岡山 OKAYAMA | 岡山シンフォニーホール | プログラムB |
| 11月27日(月) 7時 主催: 梶本音楽事務所 協賛: 大関株式会社 後援: いずみホール | 大阪 OSAKA | いずみホール | プログラムF |
| 11月29日(水) 7時 主催: 東京音協 協賛: オムロン(株)/株資生堂/日本アイ・ピー・エム(株)/メルシャン(株)/株リコー | 東京 TOKYO | サントリーホール | プログラムA |
| 12月2日(土) 6時 主催: 梶本音楽事務所 | 東京 TOKYO | 東京オペラシティ コンサートホール タケミツ メモリアル | プログラムB |
| 12月3日(日) 2時 主催: サラマンカホール | 岐阜 GIFU | サラマンカホール | プログラムG |
| 12月6日(水) 2時 主催: バッハ・フェスティバル2000 後援: しがぎん経済文化センター | 大津 OTSU | びわ湖ホール大ホール | プログラムH |
| 12月7日(木) 2時 主催: バッハ・フェスティバル2000 後援: しがぎん経済文化センター | 大津 OTSU | びわ湖ホール大ホール | プログラムI |
| 12月8日(金) 6時30分 主催: 沼津市教育委員会/財団法人沼津市振興公社 | 沼津 NUMAZU | 沼津市民文化センター | プログラムA |
| 12月9日(土) 6時 主催: 財団法人アクロス福岡 後援: 毎日新聞社/T V Q | 福岡 FUKUOKA | 福岡シンフォニーホール | プログラムA |
| 12月10日(日) 3時 主催: 財団法人埼玉県産業文化センター 後援: 埼玉県 協賛: 大宮ソニックシティ株式会社/バレスホテル大宮 | 大宮 OMIYA | 大宮ソニックシティ 大ホール | プログラムA |

招聘・提供: 梶本音楽事務所

Presented by Kajimoto Concert Management Co., Ltd.

後援: ドイツ連邦共和国大使館

ドイツ・バッハゾリストエン

DEUTSCHE BACHSOLISTEN



ドイツ・バッハ・ゾリストエンは今年結成40周年を迎えた。1962年に初来日した折のドイツ・バッハゾリストエンの演奏は、そのメンバーの豪華さと相まって、いまだに語り草となっている感動的なものだった。以来、翌1963年にはクルト・レーデル他のメンバーで来日、1965年、1970年、1974年には意欲的な『フーガの技法』をプログラムに加えてその絶妙な演奏が絶賛を博した。またその間1972年にはエリー・アメリングとのカンタータが「管と弦、そして声までが一つの音色感にとけあい、妙なる調和の世界をつくりあげた」と評され、常に生き生きとした躍動感に富むバッハの理想的名演を披露してきた。その後も1976年、1980年、1983年、1985年、1988年、1991年、1993年、1995年、1998年と日本公演が続き、今回が16回目の来日となる。

このドイツ・バッハゾリストエンを組織したのは、オーボエの世界的名演奏家としても著名なバッハ研究の権威、ヘルムート・ヴィンシャーマンである。1960年、ドイツのウルム郊外のヴィプリンゲン修道院で定期的に行われたフランクフルト・バッハ演奏会の芸術監

督も務めていたヴィンシャーマンは、これを母体に、毎年この演奏会のためにドイツ中から集まってくる第一級の優秀なバロック音楽の演奏家たちによる文字通りの“バッハ・ゾリストエン（バッハを得意とするソリストたち）”を結成した。したがって、メンバーは必ずしも一定せず、編成も弦主体だったり2管編成の木管が配されたり、12名から20数名まで自由に構成されている。しかし、常に指揮者ヴィンシャーマンの深い研究に基づく正統的な解釈による格調高い演奏は、メンバーの変動にもいささかも変わらず、「バッハにもっとも忠実に、明晰に、生き生きと、喜ばしく」というヴィンシャーマンのモットーどおり、世界中の人々の心に感動をもたらし、世界のバッハ演奏の規範となっている。

今回の日本公演は、1993年の『マタイ受難曲』、1995年の『ヨハネ受難曲』、1998年の『ロ短調ミサ曲』に続く『クリスマス・オラトリオ』と、ブランデンブルク協奏曲全曲演奏を含むバッハ・プログラムでその真骨頂を披露する。

ヘルムート・ヴィンシャーマン

Helmut Winschermann

1920年3月22日、ルール地方ミュールハイムに生まれた。エッセンとパリで学び、ヘッセン（フランクフルト）放送交響楽団、コンサートヘボウ（アムステルダム）などのソロ・オーボエ奏者を務めた。その他、数々の室内楽団のリーダーを経て、1960年フランクフルトにおいてドイツ・バッハゾリステンを創立。以来、芸術監督として、今日まで30余年全責任を持ち、この室内楽オーケストラを独特のスタイルを持つアンサンブルに育て、特にバッハ演奏において世界的に権威ある演奏団体にした。ヴィンシャーマンは、オーボエを手にしても、指揮棒を握っても、ステージに立つときは、常に、「明晰に、生き生きと、喜ばしく」という彼のモットーを貫いてきた。

ドイツ・バッハゾリステンのメンバーは、初めからヴィンシャーマンの芸術と人格を慕って集まってくる、著名なオーケストラの首席奏者や音楽大学の教授である彼の友人たち、およびその優れた弟子たちで構成されている。年配者と若い世代がバランスよく混ざり、メンバーも一定でないために、マンネリ化が避けられ、常にフレッシュな空気がアンサンブルにもたらされている。

音楽監督としては、「フランクフルト・バッハ演奏会」（20年間）、ケルン・バッハ協会の「オーケストラ演奏会」（7年間）などを手掛け、1983年からはリューデンシャイツ市で、市とドイツ政府の援助のもとに「リューデンシャイツ・バッハ週間」を主宰している。ドイツ・バッハゾリステンを率いて、あるいは客演指導者として世界各地での演奏会のほか、地元のボンのベーターヴェンホールやケルンのブリュール城でも定期的にコンサートを開いている。

日本では、1962年以来ドイツ・バッハゾリステンとの来日以外に、客演指揮者としていくつかの日本の合唱団やオーケストラを指揮し、合唱を伴う教会音楽——バッハ『マタイ受難曲』『ヨハネ受難曲』『カンタータ』『クリスマス・オラトリオ』、ヘンデル『メサイヤ』など——でも、友人のクルト・トーマスに学んだ指揮法を駆使して特筆すべき成果を上げている。また、種々の音楽祭や講演で熱心な指導を行っており、日本の若い音楽家が彼から受けた影響は少なくない。

一世を風靡した名オーボエ奏者として知られる一方、ヴィンシャーマンは優れた教育者としても知られ、1956年デトモルト国立音楽大学の教授に就任。オーボエと室内楽のマスタークラスを受け持ち、「歌うオーボエ奏者」と称される彼のクラスには世界各地から学生が集まり、優秀な後継者が輩出した。ハンス・イェルク・シェレンベルガー（ベルリン・フィル）、宮本文昭（ケルン放送響）、インゴ・ゴリツキ（シュトゥットガルト国立音楽大学）、ゲルノート・シュマールフス（デトモルト国立音楽大学）、リヴィオ・ヴァルコー（フランクフルト放響）など、それぞれのオーケストラの首席オーボエ奏者または大学の教授として活躍している。

『ブランデンブルク協奏曲』『音楽の捧げもの』『フーガの技法』などのバッハのオーケストラ作品の大曲が近年のヴィンシャーマンのプログラムの中心を占めているが、その他に、モーツァルトのピアノ協奏曲、セレナーデ、バレエ音楽、メンデルスゾーンのパレエ音楽など、意欲的にレパートリーを広げており、特にモーツァルトのレコード録音に対しては、最上の評価を得ている。

また、著名な作曲家、ギゼルヘア・クレー

べは、ヴィンシャーマンとドイツ・バツハヅリステンのために『ストラヴィンスキーの墓』という曲を書き、献呈している。

近年の公演評は、彼のモダン楽器によるバツハ演奏を高く評価している。日本やヨーロッパの大きなホールでは、モダン楽器を用いた方が聴衆はバツハの音楽をより理解することができるだろう。古楽器はすばらしいが、その魅力的な響きはヨーロッパの城にあるような小さなホールでこそ生かすことができる。ドイツ・バツハヅリステンのメンバーたちは古楽器の演奏にも通じている。ちょうどヴィンシャーマンが10年にわたってバロック・オーボエを演奏したように。

音楽学者でもあるヴィンシャーマンは、多くのバロック音楽の楽譜をジコルスキー社より出版、またレコードはドイツ・グラモフォン、ベーレンライター、フィリップス、RCA、ナミ・レコードなどより50枚以上出している。なお、バツハヅリステン結成以前にバロック・オーボエも演奏した彼は、ドイツで最初のバロック・オーボエによるレコード録音を行っている。近年では、CDでフィリップス、カプリチオ、インターコードなどよりバツハの協奏曲、ヘルマン・プライ、エディタ・グルベローヴァとのカンタータなどがリリースされている。

ドイツ政府より最高の一等功労十字勲章、レコードに対して権威あるエディソン賞2回、グスタフ・マーラー賞、1991年度ドイツ・ヘンデル賞など、多くを受賞している。1992年ロンドンで王立音楽アカデミー委員会満場一致にて「名誉会員」の称号を授与された。

1998年1月、ユネスコ本部からの依頼でパリにおいて『平和のためのチャリティー・コンサート』を指揮、絶賛を博した。





ズザネ・ホプファー
(フルート)
Susanne Hopfer
(flute)

ペーター・ルーカス=グラーフ、アンドレ・ジョネ、オーレル・ニコレに師事。ザルツブルク音楽祭、ナポリ、ルツェルン、アムステルダムなどでソリストとして演奏。フライブルク音楽大学教授。



クリスティアン・ホメル
(オーボエ、オーボエ・ダモレ)
Christian Hommel
(oboe, oboe d'amore)

ドイツ音楽コンクール第1位受賞。リュベック音楽大学で指導。ヨーロッパ各国でソリストとして活動。



ニーナ・ヴァイベル
(オーボエ、オーボエ・ダモレ、オーボエ・ダ・カッチャ)
Nina Weibel
(oboe, oboe d'amore, oboe da caccia)

デトモルト室内管弦楽団のメンバー。デトモルト音楽大学でゲルノート・シュマルフス教授に師事。



ヘルマン・ユング
(ファゴット)
Helman Jung
(bassoon)

デトモルト音楽大学教授。



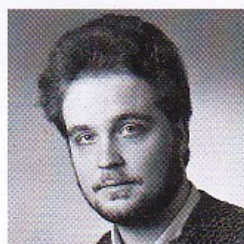
ヨハネス・ゾンダーマン
(トランペット)
Johannes Sondermann
(trumpet)

デトモルト音楽大学でゾマー・ハルダー教授に学ぶ。1992年ハノーファー州立歌劇場第1ソロ奏者就任。1993年から南西ドイツ放送響第1ソロ奏者。協奏曲やりサイトルでも活躍。プリメール・プラス・クインテット、SWF金管クインテット、アンサンブルE13のメンバー。各国でマスタークラスも行っている。



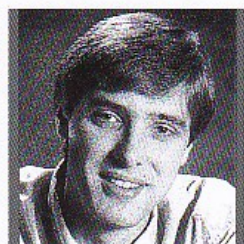
ループレヒト・ドレース
(トランペット、ホルン・ダ・カッチャ)
Ruprecht Drees
(trumpet, corno da caccia)

デトモルト音楽大学でマックス・ゾマー・ハルダー教授に師事。現在は同大学で指導。



シュテファン・マイヤー
(トランペット、ホルン・ダ・カッチャ)
Stefan Meier
(trumpet, corno da caccia)

デトモルト音楽大学でマックス・ゾマー・ハルダー教授に師事。



アンドレアス・クレッチャー
(コンサートマスター、ヴァイオリン)
Andreas Krecher
(concertmaster, violin)

フライブルクでライナー・クスマウル教授に学び、後にクレッチャースに師事。現在はデュッセルドルフ音楽大学教授。「コンソルティウム・クラシクム」のリーダー。



マリエッタ・クラッツ
(コンサートマスター、ヴァイオリン)
Marietta Kratz
(concertmaster, violin)

トーマス・ブランディス、ヨハン・クレバース、ルツェーロ・リッチに師事。バーデンバーデンのカール・フレッシュ・アカデミー首席卒業。1989年からハンブルク北ドイツ放送交響楽団コンサートマスター。



マグダ・ヘルマン
(ヴァイオリン)
Magda Herrmann
(violin)

デュッセルドルフ音楽大学でアンドレアス・クレッチャー教授に師事。



エヴァ・ハイニヒ
(ヴァイオリン)
Eva Heinig
(violin)

ハレ・ヘンデル管弦楽団のメンバー。



ドロテー・ラッグ
(ヴァイオリン)
Dorothee Ragg
(violin)

デュッセルドルフ音楽大学で学ぶ。デュッセルドルフ・シューマン室内管弦楽団のメンバー。



エレフテリオス・アダモプーロス
(ヴァイオリン)
Eleftherios Adamopoulos
(violin)

デュッセルドルフ音楽大学で
アンドレアス・クレッチャー教
授に師事。



カタリーナ・フォーゲル
(ヴァイオリン)
Katharina Vogel
(violin)

ライプツィヒでボッセ教授に
師事。ライプツィヒ放送交響
楽団のメンバー。



フローリアン・パウマン
(ヴァイオリン)
Florian Baumann
(violin)

ブレーメン州立フィルハーモ
ニーのメンバー。



マーティン・ナゴルニ
(ヴァイオリン)
Martin Nagorni
(violin)

デトモルト音楽大学で学ぶ。



イムケ・グレーヴェ
(ヴァイオリン)
Imke Greve
(violin)

ビーレフェルト・フィルハーモ
ニーのメンバー。



シュテファン・シュミット
(ヴィオラ)
Stefan Schmidt
(viola)

ウルリヒ・コッホ、ユルゲン・
クスマウル両教授、ジュリア
ード弦楽四重奏団のサミュエ
ル・ローズに師事。



ミアム・ゲッティング
(ヴィオラ)
Miriam Götting
(viola)

デュッセルドルフ音楽大学で
ユルゲン・クスマウル教授に師
事。ヨーロッパ各国でソリス
トとして活動。



ディートリヒ・シュナイダー
(ヴィオラ)
Dietrich Schneider
(viola)

デュッセルドルフ音楽大学で
学ぶ。ケルン・ギェルツェニヒ
管弦楽団のメンバー。



イレーネ・ギューデル
(チェロ)
Irene Güdel
(violoncello)

アンドレ・ナヴァラに師事。デ
トモルト音楽大学教授。



トーマス・シュルツェ
(チェロ)
Thomas Schulze
(violoncello)

デトモルト音楽大学でイレー
ネ・ギューデル教授に師事。レ
ムシャイト交響楽団のソロ・チ
ェリスト。



ズザネ・シュルツェ
(チェロ)
Susanne Schulze
(violoncello)

デトモルト音楽大学でイレー
ネ・ギューデル教授に師事。ケ
ルン音楽大学で指導。



ヘルムート・ホーフマン
(コントラバス)
Helmut Hofmann
(contrabass)

カールスルーエ音楽大学教授。
カールスルーエ州立歌劇場の
ソロ・コントラバス奏者。



ゴットフリート・バッハ
(チェンバロ、オルガン)
Gottfried Bach
(cembalo and organ)

バーゼルのスコラ・カントーラム教授。レコードも数多い。



ミドリ・ノジリ・ヴィンシャーマン
(チェンバロ)
Midori Nojiri-Winschermann
(cembalo)

相愛音楽大学ピアノ科卒業。井口愛子、矢田咲子両教授に師事。ケルン音楽大学でピアノをギェンター・ルートヴィヒ教授、チェンバロをイングリット・ハイラー氏に学ぶ。ヨーロッパ各地や日本で室内楽、リート伴奏など演奏し、1979年よりドイツ・バッハゾリステンのメンバー。他のアンサンブルとも活動。



白尾 隆
(フルート)
Takashi Shirao
(flute)

桐朋学園大学、フライブルク音楽大学で学ぶ。林リリ子、森正、オーレル・ニコレ、アンドレ・ジョネの各氏に師事。1980～86年オーストリアのインスブルック交響楽団首席奏者を務め、ソロ、室内楽、放送にも活躍。武蔵野音楽大学、広島エリザベト音楽大学、沖縄県立芸術大学講師。「サイトウ・キネン・オーケストラ」「ロイヤル・チェンバー・オーケストラ」メンバー。



中根庸介
(オーボエ、オーボエ・ダ・カッチャ)
Yosuke Nakane
(oboe, oboe da caccia)

東京芸術大学在学中に国立トロッシゲン音楽大学に入学。南西ドイツ・フィルなどにエキストラとして出演。昨年度から芸大に復学。オーボエを井口博之、小畑善昭、高井明、D. ヨナス、室内楽を岡崎耕治、T. フレデリクセンの各氏に師事。



平井好子
(オーボエ、オーボエ・ダ・カッチャ)
Yoshiko Hirai
(oboe, oboe da caccia)

京都市立芸術大学とテトモルト音楽大学で学ぶ。岩崎勇、ヘルムート・ヴィンシャーマン両教授に師事。リサイタル、室内楽に活躍。現在、大阪府立夕陽丘高等学校音楽科非常勤講師。



安江佐和子
(ティンパニ)
Sawako Yasue
(timpani)

桐朋学園大学、同大学研究科で学ぶ。1991年ミュンヘン国際コンクール奨励賞受賞。ティンパニ、マリンバソロ、パーカッションソロ、アンサンブル、オーケストラ、室内楽に活躍、古典から現代音楽までレパートリーも幅広い。「サイトウ・キネン・オーケストラ」メンバー。桐朋学園大学非常勤講師。



都筑道子
(コントラバス)
Michiko Tsuzuki
(contrabass)

桐朋学園大学卒業。ボストン大学大学院修士課程修了。国立音楽大学附属高校、桐朋学園大学短期大学部各非常勤講師。「ロイヤル・チェンバー・オーケストラ」メンバー。「サイトウ・キネン・オーケストラ」に参加。



DEUTSCHE BACHSOLISTEN



天羽明恵

(ソプラノ)

Akie Amou

(soprano)

超絶的なコロラトゥーラとリリックな声を併せ持ち、内外で急速に評価を高めている日本期待のソプラノ。

東京芸術大学卒業。文化庁オペラ研修所第8期生、二期会オペラ・スタジオ第34期生を経て、シュトゥットガルト音楽大学に留学。戸田敏子、フランシス・シマール両氏に師事。

1995年ラインスベルク音楽祭「ナクソス島のアリアドネ」にツェルビネット役で出演。ノルウェー女王記念コンクール優勝。1999年Bunkamura「トゥーランドット」のリュウ、五島記念文化賞オペラ新人海外研修帰国記念リサイタル（紀尾井ホール）などで絶賛を博す。1999年度アリオン賞受賞。



井坂 恵

(アルト)

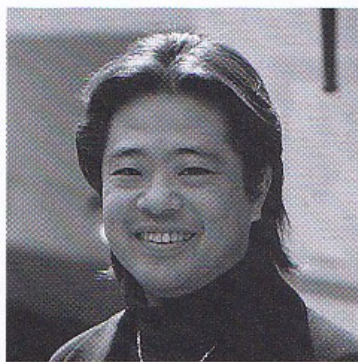
Megumi Isaka

(alto)

オペラ、オラトリオ、リサイタル、放送などに今後の活躍が期待される新進歌手。

武蔵野音楽大学、同大学院修了。二期会オペラスタジオ第31期生、文化庁オペラ研修所第8期生を経て、カールスルーエ音楽大学大学院、モーツァルトウム音楽大学大学院に留学。1996年全日本学生音楽コンクール独唱部門東日本第1位。須藤さやか、菊池初美、竹村靖子、ユリア・ハマリの各氏に師事。

1997年デビュー・リサイタル。1998年新国立劇場でのモーツァルト「フィガロの結婚」でケルビーノ役を歌い、二期会オペラにデビュー。二期会会員。



吉田浩之

(テノール)

Hiroyuki Yoshida

(tenor)

みずみずしく伸びやかな美声と叙情性豊かな表現力で魅了するリリック・テノール。

国立音楽大学卒業。東京芸術大学大学院オペラ科修了。二期会オペラスタジオ第30期生を経て、ローマに留学し、イタリア各地でコンサートに出演。松村勇、布施隆治、渡辺誠、渡邊高之助、高橋大海、山路芳久、M. コラチッキ、S. ローチ、A. ポーラの各氏に師事。第25回ジロー・オペラ賞新人賞受賞。モーツァルト没後200年記念国際モーツァルト声楽コンクール本選入選。

モーツァルトをはじめとするオペラはもちろん、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」などのコンサートでも活躍を続けている。



大澤 建

(バス)

Ken Osawa

(bass)

日本大学芸術学部にてホルンと声楽を専攻後、二期会オペラスタジオを優秀賞を受賞して修了。その後、二期会公演「運命の力」、「バラの騎士」などに出演し、豊かな声量と存在感あふれる演唱で好評を得る。

1993年小澤征爾指揮ベルリオーズ「ファウストの劫罰」でソリストを務めた後、渡独し、オスナブリュック市立劇場の第1バスソリストとして専属契約を結ぶ。ドイツ各地で公演し、「洗練された歌唱と深い響きのバス」「迫真の演技」など、新聞などで好評を博す。1997年秋以降、日本に拠点を移し、オペラのほか、リート、オラトリオでも活躍、バッハから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、高い評価を得ている。



盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
Morioka Bach Kantaten Verein

1977年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫してJ. S. バッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。その演奏が、1991年ドイツにおいて「作品の語感、音、そして精神の完熟」という現地新聞の批評を受けるに至るまでには指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあった。佐々木は超一流のエヴァンゲリストとして評価されるその発音、語感、様式感をもう一つのライフワークである合唱団の育成に注ぎ込み、その結果「言葉が生きて」と音楽が生きて」とは歌の世界では同義語である」というカンタータ・フェラインの音楽信条が演奏上の身上となるに至ったのである。

その後、H. ヴィンシャーマン、H. J. ロッチュ、J. ツィルヒ、岩城宏之等、世界的指揮者との共演を重ね、各指揮者より、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として、熱い評価を得るようになった。

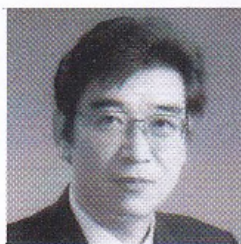
この評価は、声の充実を追求する合唱団や、古楽器的な歌唱法を駆使して鮮烈な表現を目指す合唱団に与えられるものとは性格を異にする。温かい音色を基調としながら、音楽の刻々と変化する様相を、その時々に対応しいニュアンスで大胆かつ繊細に、確信を持って表現しきろうとする、あくまで人間・バッハへの共感を基調とする合唱団に対してのものなのである。

ヴィンシャーマンとは、1991、93、98、99年に続き、今回が5度目の共演。昨年11月には、ドイツ・ボンでバッハの「ロ短調ミサ」をドイツ・バッハゾリステンと共演し、絶賛を博した。



岡山バッハカンタータ協会
Okayama Bach Kantaten Verein

1987年、岡山で活躍中の声楽家と合唱愛好家21名が、カンタータを中心としたバッハの合唱音楽の演奏を目的に結成。日本を代表するバッハ演奏のスペシャリストである、佐々木正利氏を指揮者に迎えて現在に至る。佐々木氏の深いバッハ解釈に基づいて、ソロも全て団員が受け持つゾリステン、と好評を博す。1993年には、H・ヴィンシャーマン指揮ドイツ・バッハゾリステンと「マタイ受難曲」を共演し、岡山での初演を果たした。1994年、東京カザルスホールでの演奏会（指揮・佐々木正利）では、「真摯で正攻法の演奏」「明快なフレージングとはっきりとしたドイツ語発音による豊かな表現力」（音楽現代'94.12月号）と、高い評価を獲得。1995年に東京サントリーホールで、同じくドイツ・バッハゾリステンと「ヨハネ受難曲」、1998年には「ロ短調ミサ」を共演。このライブCDが全国発売され、「他に類を見ないコーラル表現」（レコード芸術'97.2月号）、「作品全体を抱きしめるような、温かくまた限り無いバッハの喜びに溢れている」（音楽の友'99.2月号）と、何れも高い評価を受けている。1997年のドイツ・オーストリア演奏旅行では、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団と共演。1999年は、初来日した金管古楽器の世界的プレイヤーで構成されているバロック・プラス・オブ・ロンドンと岡山、大阪で共演する等、地方都市を本拠とする、芸術性の高いバッハ合唱団として、今後の活躍が益々期待されている。



佐々木正利

(合唱指揮)

Masatoshi Sasaki
(chorus conductor)

東京芸術大学卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。1973年にバッハ「クリスマス・オラトリオ」の福音史家でデビューして以来、宗教音楽のスペシャリストとして確固たる地位を得ている。デットモルト北西ドイツ音楽大学に留学。欧州各国の演奏会に招かれ、1980年ウィーン楽友協会ホールでの「マタイ受難曲」では「若き日のP. シュライヤー」と各紙で絶賛された。帰国後も、ヴィンシャーマン率いるドイツ・バッハゾリステンをはじめ、内外の著名オーケストラにソリストとして起用される。1985年にはザルツブルク音楽祭に招かれ、バッハ「マニフィカト」等で絶賛を博した。さらに、数多くのリサイタル、十数ものレコード・CD、さらにテレビやFMへの度々の出演など活躍を続けている。

1970年東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの創設に携わり、後進を育てるとともに指揮者としての活動を開始。主に宗教曲の演奏に冴えをみせ、特に盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団等を率いての6度にわたるドイツ公演では「シュッツ、バッハの世界的担い手」と最大級の賛辞が各紙に掲載される。1994年、長年にわたる顕著な演奏・教育の業績に対し、第47回岩手日報文化賞（学芸部門）が贈られ、また本年8月にはアメリカ・イオンド大学より名誉博士号が授与された。

岩手大学教育学部音楽科教授。二期会会員。グルッペ・ベッヒライン会員。日本声楽発声学会理事。日本発声指導者協会常任理事。仙台バッハ・アカデミー理事。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハカンタータ協会、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団各常任指揮者、水戸バッハ・コレギウム音楽顧問。



バッハ・フェスティバル2000コーラス
Bach Festival 2000 Chorus

毎年「琵琶湖の春の訪れとともにメサイアを！」を合い言葉に、ヘンデルのメサイアを歌いつづけてきたメンバーを中心として、バッハ没後250年記念に特別編成された合唱団。滋賀・京都を中心に、関西のバロック大好きメンバーで構成されている。

9月には、バッハ・フェスティバル2000のオープニングとして「マタイ受難曲」を延原武春：指揮、テレマン室内管弦楽団と共演し、昨年は、ドイツ・ハンブルクへ演奏旅行に出かけるなど、活発な取り組みを見せ、今回は特に、フェスティバルのクロージング演奏会ということもあり、思い入れのあるバッハ演奏が大いに期待される。

メサイア演奏会も来年春には、いよいよ20周年を迎える。

B プログラム

11月23日 盛岡●November 23 MORIOKA
11月26日 岡山●November 26 OKAYAMA
12月2日 東京●December 2 TOKYO

J. S. バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)

クリスマス・オラトリオ BWV 248

Weihnachts-Oratorium BWV 248
Christmas-Oratorio BWV 248

第1部 「歓呼の声を放ち、喜び踊ろう、この日を祝おう」 (クリスマス第1祝日用)

I. Teil: Am 1. Weihnachtstag "Jauchzet, frohlocket, auf, preiset die Tage"
for alto, tenor, bass, choir, 3 trumpets, 2 flutes, 2 oboes, 2 oboi d'amore,
strings, timpani and basso continuo

1. 合唱 - 2. レチタティーヴォ (福音史家) - 3. レチタティーヴォ・アッコ
ンパニャート (アルト) - 4. アリア (アルト) - 5. コラール - 6. レチタ
ティーヴォ (福音史家) - 7. コラール (ソプラノ) とレチタティーヴォ (バス) -
8. アリア (バス) - 9. コラール
1. Coro - 2. Recitativo (Evangelista) - 3. Recitativo accompagnato
(Alto) - 4. Aria (Alto) - 5. Choral - 6. Recitativo (Evangelista) -
7. Choral (Soprano, Basso) - 8. Aria (Basso) - 9. Choral

第2部 「そのあたりに羊飼いが」(クリスマス第2祝日用)

II. Teil: Am 2. Weihnachtstag "Und es waren Hirten in derselben Gegend"
for soprano, alto, tenor, bass, choir, 2 flutes, 2 oboi d'amore, 2 oboi da caccia,
strings and basso continuo

10. シンフォニア - 11. レチタティーヴォ (福音史家) - 12. コラール -
13. レチタティーヴォ (福音史家、天使=ソプラノ) - 14. レチタティーヴォ (バ
ス) - 15. アリア (テノール) - 16. レチタティーヴォ (福音史家) -
17. コラール - 18. レチタティーヴォ (バス) - 19. アリア (アルト) -
20. レチタティーヴォ (福音史家) - 21. 合唱 - 22. レチタティーヴォ (バ
ス) - 23. コラール
10. Sinfonia - 11. Recitativo (Evangelista) - 12. Choral - 13. Recitativo
(Evangelista, Soprano=Angelus) - 14. Recitativo (Basso) - 15. Aria
(Tenore) - 16. Recitativo (Evangelista) - 17. Choral - 18. Recitativo
(Basso) - 19. Aria (Alto) - 20. Recitativo (Evangelista) - 21. Chorus -
22. Recitativo (Basso) - 23. Choral

第3部 「天を統べる支配者よ」(クリスマス第3祝日用)

III. Teil: am 3. Weihnachtstag "Herrscher des Himmels, erhöere das Lallen"
for soprano, alto, tenor, bass, choir, 3 trumpets, 2 flutes, 2 oboes, 2 oboi d'
amore, timpani, violin, strings and basso continuo

24. 合唱 - 25. レチタティーヴォ (福音史家) - 26. 合唱 - 27. レチタ
ティーヴォ (バス) - 28. コラール - 29. 二重唱 (ソプラノ、バス) - 30. レ
チタティーヴォ (福音史家) - 31. アリア (アルト) - 32. レチタティーヴォ
(アルト) - 33. コラール - 34. レチタティーヴォ (福音史家) - 35. コラ
ール
24. Coro - 25. Recitativo (Evangelista) - 26. Chorus - 27. Recitativo
(Basso) - 28. Choral - 29. Aria Duetto (Soprano, Basso) - 30.
Recitativo (Evangelista) - 31. Aria (Alto) - 32. Recitativo (Alto) - 33.
Choral - 34. Recitativo (Evangelista) - 35. Choral

- * - * -

第4部 「感謝と讃美をもってひざまずけ」(イエスの御名の祝日用)

IV. Teil: Am Fest der Beschneidung Christi "Fallt mit Danken, fallt mit Loben"
for soprano, tenor, bass, choir, 2 corni da caccia, 2 flutes, 2 oboes, 2 violins,
strings and basso continuo

36. 合唱 - 37. レチタティーヴォ (福音史家) - 38. レチタティーヴォ (バ
ス) とコラール (ソプラノ) - 39. アリア (ソプラノ、エコー) - 40. レチ
タティーヴォ (バス) とコラール (ソプラノ) - 41. アリア (テノール) -
42. コラール
36. Chorus - 37. Recitativo (Evangelista) - 38. Recitativo con Chorale
(Soprano, Basso) - 39. Aria (Soprano, Echo [Soprano]) -
40. Recitativo con Chorale (Soprano, Basso) - 41. Aria (Tenore) -
42. Chorale

第5部 「栄光あれと、神よ、汝に歌わん」(新年第1日曜日用)

V. Teil: Am Sonntag nach Neujahr "Ehre sei dir, Gott, gesungen" for soprano,
alto, tenor, bass, choir, 2 oboi d'amore, strings and basso continuo

43. 合唱 - 44. レチタティーヴォ (福音史家) - 45. 合唱とレチタティーヴォ
(アルト) - 46. コラール - 47. アリア (バス) - 48. レチタティーヴォ (福
音史家) - 49. レチタティーヴォ (アルト) - 50. レチタティーヴォ (福音史
家) - 51. 三重唱 (ソプラノ、アルト、テノール) - 52. レチタティーヴォ (ア
ルト) - 53. コラール
43. Coro - 44. Recitativo (Evangelista) - 45. Coro, Recitativo (Alto) -
46. Choral - 47. Aria (Basso) - 48. Recitativo (Evangelista) - 49.
Recitativo (Alto) - 50. Recitativo (Evangelista) - 51. Aria Terzetto
(Soprano, Alto, Tenore) - 52. Recitativo (Alto) - 53. Choral

第6部 「主よ、高慢な敵どもの息巻く時」(顕現節用)

VI. Teil: Am Epiphaniastag "Herr, wenn die stolzen Feinde schnauben"
for soprano, alto, tenor, bass, choir, 3 trumpets, 2 oboes, 2 oboi d'amore,
timpani, strings and basso continuo

54. 合唱 - 55. レチタティーヴォ (福音史家、バス=ヘロデ) - 56. レチ
タティーヴォ (ソプラノ) - 57. アリア (ソプラノ) - 58. レチタティーヴォ (福
音史家) - 59. コラール - 60. レチタティーヴォ (福音史家) - 61. レチ
タティーヴォ (テノール) - 62. アリア (テノール) - 63. レチタティーヴォ
(ソプラノ、アルト、テノール、バス) - 64. コラール
54. Chorus - 55. Recitativo (Evangelista, Basso=Herodes) -
56. Recitativo (Soprano) - 57. Aria (Soprano) - 58. Recitativo
(Evangelista) - 59. Choral - 60. Recitativo (Evangelista) -
61. Recitativo (Tenore) - 62. Aria (Tenore) - 63. Recitativo a 4
(Soprano, Alto, Tenore, Basso) - 64. Choral

天羽明恵 (ソプラノ)
Akie Amou, soprano

井坂 恵 (アルト)
Megumi Isaka, alto

吉田浩之 (テノール)
Hiroyuki Yoshida, tenor

大澤 建 (バス)
Ken Osawa, bass

藤崎美苗 (ソプラノ: エコー 11/23)
Minae Fujisaki, soprano: echo (Nov. 23)

岡崎順子 (ソプラノ: エコー 11/26, 12/2)
Junko Okazaki, soprano: echo (Nov. 26 and Dec. 2)

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン (合唱 11/23)
Morioka Bach Kantaten Verein (Nov. 23)

岡山バッハカンタータ協会 (合唱 11/26, 12/2)
Okayama Bach Kantaten Verein (Nov. 26 and Dec. 2)

佐々木正利 (合唱指揮)
Masatoshi Sasaki, chorus director

ズザネ・ホップファー (フルート)
Susanne Hopfer, flute

白尾 隆 (フルート)
Takashi Shirao, flute

クリスティアン・ホメル (オーボエ、オーボエ・ダモーレ)
Christian Hommel, oboe and oboe d'amore

ニーナ・ヴァイベル (オーボエ、オーボエ・ダモーレ)
Nina Weibel, oboe and oboe d'amore

中根庸介 (オーボエ・ダ・カッチャ)
Yosuke Nakane, oboe da caccia

平井好子 (オーボエ・ダ・カッチャ)
Yoshiko Hirai, oboe da caccia

ヨハネス・ゾンダーマン (トランペット)
Johannes Sondermann, trumpet

アンドレアス・クレッチャー (ヴァイオリン 11/23, 11/26)
Andreas Krecher, violin (Nov. 23 and 26)

マリエッタ・クラッツ (ヴァイオリン 12/2)
Marietta Kratz, violin (Dec. 2)

マグダ・ヘルマン (ヴァイオリン)
Magda Hermann, violin

イレネ・ギューデル (チェロ)
Irene Güdel, continuo-cello

ヘルマン・ユング (ファゴット)
Hermann Jung, bassoon

ヘルムート・ホーフマン (コントラバス)
Helmut Hofmann, contrabass

ゴットフリート・バッハ (オルガン)
Gottfried Bach, organ

ミドリ・ノジリ・ヴィンシャーマン (チェンバロ)
Midori Nojiri-Winschermann, cembalo

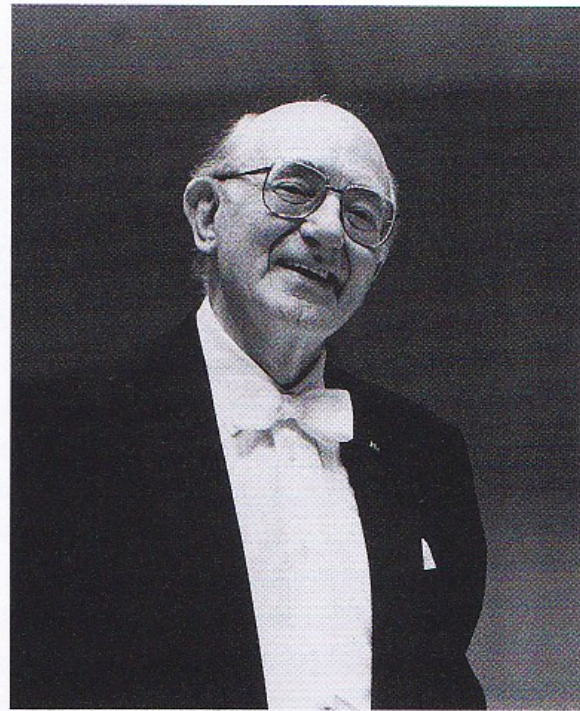
《クリスマス・オラトリオ》について

■ ヘルムート・ヴィンシャーマン

私が初めて《クリスマス・オラトリオ》のオリジナル自筆スコアを手にした時、バッハのグラフィック的精緻さに強い感銘を受けました。これは、私の人生において最も印象深い出来事の一つで、この曲を演奏する度に、あの素晴らしい原譜が眼に浮かびます。1734年に作られたこの「オラトリオ」は、バッハの全ての声楽曲中、最もポピュラーで、その喜びにあふれる明るい性格は、イエスの死をドラマティックな音楽手法で語る二大受難曲——《ヨハネ》と《マタイ》——とは対照的な位置にあります。〈羊飼いのシンフォニア〉、〈子守歌〉、いくつかの心に染み入る純朴な〈コラール〉などで織りなされる《クリスマス・オラトリオ》によって、私達は幼児イエスの降誕の物語を、またキリスト教とキリスト紀元（西暦）の始まりを体験することが出来るのです。「ナザレ」や「ベツレヘム」という地名も、ユダヤ人とパレスティナ人の激しい争いを伝える昨今の報道で毎日のように耳にします。

この「オラトリオ」は6つのカンタータより構成されており、第1カンタータが第1クリスマスの日、つまり12月25日、第2カンタータが第2クリスマスの12月26日、第3カンタータが12月27日のために書かれ、この第3カンタータでキリスト降誕の物語は終わります。第4～第6カンタータは、ユダヤ人の王として生まれた嬰兒イエスへの大讃歌が主となり、その合同に、東方からの博士たちより、ベツレヘムにユダヤ人の王が生まれたと聞き、これを抹殺しようと、全ての新生児の殺害を命じたヘロデ王のおどし、陰謀が入ってきます。博士たちは、王の命令に従わず、イエスの居場所を明かさなかったのです。

コラール〈我は汝の飼い葉桶の側に立ちて〉（第59曲）は恐らく全オラトリオ中最も



感動的でしょう。

今回私はドイツより、イエスの居場所を示す「星」を持ってきてステージの上に吊そうと思います。ドイツの教会でクリスマス時にはどこでもそうして祝うように。

（訳：ヴィンシャーマン・翠）

DEUTSCHE HELMUT BACHSOLISTEN WINSCHERMANN

Als ich erstmals die autographe Original-Partitur des "Weihnachts-Oratoriums" in meinen Händen hielt, war ich von der "grafischen Genauigkeit" der Handschrift Bachs tief beeindruckt. Es gehört zu meinen stärksten Erlebnissen und immer, wenn ich dieses Werk aufführen darf, habe ich die wundervoll geschriebene Holztafel vor meinen Augen. Das 1734 entstandene Oratorium ist von allen Vokalwerken Bachs das ausstrahlendste. Der frohe, heitere Charakter der Musik steht im Gegensatz zu den beiden grossen Passionen, die den gewaltigen Tod Jesu mit dramatischen musikalischen Mitteln beschreiben. In "Weihnachts-Oratorium" mit seinen Sätzen wie der "Hirten-Sinfonie" und einigen ergreifend kindlichen Chören erzählt mir die Geschichte der Geburt des Kindes Jesus, den Beginn der christlichen Religion und eine andere Zurechnung. Heute, wo Juden und Palästinenser Krieg gegeneinander führen, sind Oratorien wie "Noverre" oder "Bethlehem" in den Zeitungen und im TV sprachliche Alltagswelt. Das "Weihnachts-Oratorium" besteht aus 6 Kantaten. Der Zyklus beginnt am 25. Dezember, dem 1. Weihnachtstag, dann folgt die 2. Kantate am 26. Dezember und die dritte am 27. Dezember. Hiermit endet die eigentliche Geschichte der Geburt Jesu. Die Kantaten 4-6 sind als grosser Lobgesang auf den "neugeborenen König der Juden", nur unterbrochen durch die Ermordung des Königs Herodes, alle neugeborenen Kinder zu töten, um damit auch das in Bethlehem geborene Jesus-Kind zu vernichten, von dem die "Weisen aus dem Morgenland" sagten, das Kind sei der neugeborene "König der Juden". Sie befolgten Herodes' Befehl jedoch nicht. Der Choral "Ich seh' an jener Krone Jesu" ist wohl der ergreifendste Moment im Verlauf des Oratoriums. Ich bringe aus Deutschland einen Stern mit und lasse ihn über das Podium aufhängen - so wie wir in Deutschlands Kirchen Weihnachten feiern.

Helmut Winschermann

 KAJIMOTO CONCERT MANAGEMENT CO., LTD.